

1 文書館のKSF等の実施状況と利用者数（運営計画評価）

運営計画においてKSF等として設定した 主な課題の実施状況は、表 1 のとおり、令和 8 年度までに概ね実施している。

一方、K G I（目標）として設定した利用者数について、令和 8 年度見込みを試算したところ6,791人¹であった。令和 8 年度のK G Iは8,900人であるが、計画期間内における群馬県の総人口の減少を考慮し、補正すると8,478人となる。この場合、令和 8 年度における達成率は80.0%²となる見込みである。

表 1 KSF等の実施状況と利用者数

新規事業は下線

			R 6	R7	R 8	
普 及 啓 発 等	講 座	小・中学生		多色刷りワークショップ（歴史博物館と共催）		
		高校・大学生			集まれ！未来の歴史学者	
	展 示	一 般	古文書読解講座（入門（全４回）、長期（全10回））			
			ぐんま史料講座（年１回）	ぐんま史料講座（年１→２回）コロナ禍前は２回開催		
			市町村連携講座(年１回) アウトリーチ型			出前なんでも講座（内容を絞り多数回開催）
			テーマ展示（年３→２回）	テーマ展示（年２回）		
				逸品展示（年６回）		
	その他	古文書ボランティア運営 古文書学習団体連携（会場貸し出し）				
		広 報	確実な報道提供			
			公式Facebook運営	公式Facebook及び__運営		
機 能 強 化	閲覧窓口		閲覧担当者会議設置・運営			
	公 開			電子公文書の電子データによる公開		
	保 存			書庫内の湿度管理、衛生管理の強化		
	人 材			認証アーキビスト養成（目標：R 9 末に２名）		
K G I（補正值）			7,820	8,370	8,900（補正 8,478）	
館利用者数			5,479	5,415	推計 6,791	

< 参考 >

1 令和 8 年度の利用者数見込みは、直近3か年（令和 5 ～ 8 年度）の 4 月から6月までの平均利用者数（1,619人）と平均年間利用者数（6,055人）の関係から算出した。年間利用者数は 4 月から6月までの平均利用者数の約3.74倍になることから、令和 8 年度の 4 ～ 6 月の利用者数は1,816人に、この係数を乗じて推計した。

2 令和 8 年度の K G I は当初8,900人と設定していたが、平成30年度から令和 7 年度までの群馬県内の総人口の減少率を考慮（▲4.7%）して補正した。

2 - 1 指標「古文書等の公開数」の追加（次期運営計画）

寄贈、寄託により収蔵している古文書は、年間約1万点程度を公開している。現在の人員体制と業務量を勘案すると現状の公開数は適正な水準と考えられるが、収蔵資料の早期公開を促進する観点から、新たに「公開数」を指標として設定する。

表2 古文書等の公開状況（数値は当該年度の「群馬県立文書館年報」による）

		収蔵数	公開数	公開数累計	公開率	備 考
参 考	H20	371,632	不明	160,000	43.1%	公開数累計、公開率は概数
	H25	439,001	9,953	205,169	46.7%	
	H30	493,628	10,050	252,397	51.1%	
R 5		600,562	10,833	343,333	57.2%	マイクロフィルム収集資料(約9万点)を含む
R 6		603,171	11,084	354,093	58.7%	同上
R 7		607,617	11,318	365,413	60.1%	同上

< 参考 >

令和7年度末現在の未公開古文書等は242,204点であり、直近3か年の平均公開数は11,078点である。このペースで継続した場合、公開完了までに約22年を要する見込みである。

なお、毎年度、新たな古文書等の受入れがあることから、収蔵資料全体の公開完了には、さらに長期間を要する。

2 - 2 普及啓発事業の重点対象（次期運営計画）

令和6年度に策定した現行運営計画に基づき、小・中学校、高校生・大学生を対象とした講座を新たに開催した。その結果、従来の一般向け講座を加えると子どもから大人までの幅広い世代を対象にした普及啓発事業を展開することができた。

これまで開催してきた一般向け講座の参加者と閲覧（室）利用者の年代構成は表3のとおりである。講座参加者は60～70代及び80代以上を合算すると78.8%と全体の約8割を占めている。これは定年退職後の生涯学習として受講していると考えられる。

一方、閲覧利用者については20～30代及び40～50代がそれぞれ24%程度を占めており歴史研究者による活用が一定数存在するためと考えられる。また、60～70代は44.7%と最も高いのは、退職後の歴史愛好家等による利用の増加が要因と考えられる。

これらの利用実態を国内総人口の年代構成比を基準に指数化したものが表4である。60～70代は講座参加で244（約2.4倍）、閲覧利用は179（約1.8倍）と他の年代よりも特に高いことが分かる。

以上のことから、次期計画では主要な利用者層である60～70代を普及啓発活動の重点対象とする。

表3 年代別比率

	講座参加者	閲覧利用者	（参考）総人口
20歳未満	0.0%	0.8%	15.6%
20～30代	1.8%	24.8%	21.0%
40～50代	19.4%	23.7%	28.0%
60～70代	60.9%	44.7%	25.0%
80代以上	17.9%	6.0%	10.4%

表4 年代別指数

	講座参加者	閲覧利用者
20歳未満	0	5
20～30代	9	118
40～50代	69	85
60～70代	244	179
80代以上	172	58

講座参加者：令和7年度に古文書読解講座、ぐんま史料講座のアンケート回答者（165人）から算出

閲覧利用者：令和5年度閲覧室利用者の実人数（367人）から算出

国内総人口：総務省統計（2024年10月現在）から算出